

小山さん講演要約

(1) 1964年東京オリンピックが始まったときだが、私は大阪にいたが奈良にも行事の取材に何回か来た。長くNHKにいと、NHK的雰囲気染みついてきている。

こんなに全国的に視聴者の会ができてきたのは始めてのこと。それだけ、日本の状況、メディア、NHKのあり方がおかしいと皆さんが感じているからだと思う。靱井という人が会長になってから、これはちょっとおかしいということを発言したり、理事全員から辞表を預かるということをした。自分が「主」で、みんなはそれに従うべきという考え方をしているようです。政府がまだ方針を出していないからうんぬんという発言もしている。会長就任あいさつでは「ボルトとナットで締め上げる」と言っていた。これは大変だということで、2000人のOBが集まって、靱井会長は辞めよと要求した。(パワーポイントによって)

(2) まず、NHKの歴史から考えてみる。

無線通信法というのがあって、電波は国が持っている。1923年逓信省は放送は民間でやるべきという判断をした。ところが、ラジオの効果が大いことが分かって、1925年に国でもない民間でもない、公益法人とした。3局体制でラジオ放送が始まった。翌年、政府は3つの放送局を解散させ、一本化した。

1928年11月天皇即位のときに、仙台から熊本まで「全国中継網」がつながった。始めて、昭和天皇の即位式を放送した。

1931年満州事変が起こり、朝日新聞は始め戦争反対だったが、読売、毎日が戦争報道を行っていく。在郷軍人会が朝日新聞の不買運動を行い、やがて朝日新聞も戦争報道をしていくようになった。世論は戦争へと傾いていった。NHKは、ラジオ標語を募集した。「挙って国防」「揃ってラジオ」など。軍艦マーチや「海ゆかば」などを頻りに流すようになる。政府は自衛のための戦争だとい、メディアもそれを宣伝していった。それまでのアナウンサーは、ニュースを淡々と読んでいたが、戦争が始まると高揚した読み方をするようになっていった。

(3) 今、メルケル首相が来日しているが、メルケル首相は5月8日は解放の日である、ナチスの蛮行、戦争の恐怖から解放された日であると発言した。ドイツ人は「解放」と捉えた。過去ときちんと向き合って、歴史の責任をはっきりさせたといっている。メルケルと安倍の会談では戦争責任について安倍は何も言わなかったらしいが。安倍は戦後70年ということで、侵略、おわびを変えたいと思っているんでしょう。過去をほったらかしにして、未来志向はできないでしょう。

軍部に強制されて、やむなく戦争協力した、時代のせいであると、朝日、毎日と言った。NHKはそれさえも言わなかった。

(4) GHQは、NHKは使えるということで残した。天皇制と同じで責任を問わずに温存した。米軍管理放送が始まったが、米兵の犯罪は報道されず。一方、放送職員が街頭へ出て、街頭放送という一般の人の意見や討論などが放送された

1946年放送委員会ができ、会長に高野岩三郎が選ばれる。当時は企業別組合ではなく、職種別組合。10月、読売新聞争議の解決、団体協約の締結、待遇改善を要求してNHKはストライキに突入するが敗北した。朝日新聞、毎日新聞はストには入らなかった。

(5) 1950年にレッドパージで各経営者はメディアの組合員の首切りを行った。その人たちから、のちの民放を作る人たちが出てくる。NHKに「日曜娯楽版」という番組があり風刺に富んだコントをラジオ放送していた。三木鶏朗、三木のり平、丹下きよ子などが出演して政府批判、米軍批判のコントを行っていた。人気のある番組だった。1952年吉田首相の圧力で「日曜娯楽版」が「ユーモア劇場」に変えさせられた。NHKには「常に」介入があったが、それをどう跳ね返すかが、メディアの力である。

(6) 1964年に私はNHKに入った。トンキン湾事件でベトナム戦争が始まるが、謀略で戦争を始めた。1965年「南ベトナム海兵大隊戦記」の放送に当時の官房長官から電話が入って、この放送を中止させられた。また、政府はTBSに圧力をかけ、ベトナム戦争を報道していた田英夫は辞職するに至っている。放送の許認可権は政府がもっており、許認可権をちらつかされると、ビビるなどといっても、経営者はビビってしまう。

(7) パブリックアクセスについて。

韓国では2000年、新放送法でパブリックアクセスを義務化した。1970年代以降、ヨーロッパでは「自由ラジオ」というのがでてきている。日本では、「三条ラジオカフェ」(京都)、「FMわいわい」(神戸)が活動している。メディアは同じことを言っている、どこに重きを置くかによって、ぜんぜん違ってくる。梶井会長の恥ずかしい発言の数々、職員はなかなか声を上げにくい。我々OBが2000人、彼らに代わって、梶井辞めろとっている。

(8) NHKの問題点は、不徹底な戦争責任追及、権力からの介入の受けやすさ、ジャーナリズム精神の希薄さにあり、昔は軍部で今は政府や行政偏重の体質がある。今後の課題は、いい番組があったら、声を届けてほしい、変な番組には抗議をしてほしいこと。NHK労組は、なかなかしつかりしないが、飽きずに労組に手を差し伸べてほしい。そして、市民メディアの強化、市民にとっての情報を大切にしていってほしい。

以上